

地域と共にある学校づくり

発行：長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

学校と地域で目標やビジョンの共有

今年度開催された学社連携・協働意見交換会やCSコーディネーター研修会などでコミュニティスクールをよりよいものとするために学校と地域で「育てたい子ども像」を共有することの大切さが話題となっていました。

「育てたい子ども像」を共有したり、その実現に向けての支援を考えたりする場合は、多くの学校で運営委員会または学校運営協議会になります。そこで今回は、運営委員会または学校運営協議会での話し合いを充実させるためのヒントとなる、11月に行われた中信教育事務所開催「学社連携・協働フォーラム」で行われた模擬運営委員会の様子を紹介しします。

参加者みんなで体験！模擬運営委員会

～中信教育事務所開催「学社連携・協働フォーラム」報告より(抜粋)～

○模擬運営委員会のねらい

- ・基本方針を地域に開いていく上で、「運営委員会は、学校・地域・家庭が対等に話せる場であるということ」を味わう。
- ・情報、目標の共有が図れるような会の進め方、熟議へとつながる委員の発言を引き出すポイントを自分事として学ぶ。

○模擬運営委員会の行い方

- ・参加者本来の立場とは違う役割になりきり発言する。
- ・役割は、あらかじめ右の表のとおり決めておく。
- ・司会の運営委員長、学校の基本方針を提案する校長、熟議を進める自治会長以外の役については、周りの方と相談し、同意の上で交代も有りとする。

※司会や熟議を進める人は、地域側の役となるようにする。



運営委員の役 ※ () 内は参加者本来の立場

【地域側】

- ・運営委員長 (信州型CSアドバイザー・指導主事)
- ・自治会長(学校支援コーディネーター・運営委員長等)
- ・副区長 (PTA 副会長等)
- ・PTA会長 (教頭)
- ・学校評議員 (社会教育委員等)
- ・交通安全協会 (社会教育委員・教諭)
- ・公民館長 (校長・教頭・園長)
- ・信州保育園長 (PTA 会長・PTA 副会長)
- ・民生委員・児童委員 (教頭)
- ・社会教育委員 (教育委員会・公民館長等)
- ・地域コーディネーター (教育委員会・教諭等)
- ・放課後子ども教室運営関係者 (PTA 副会長・教諭)

【学校側】

- ・校長 (教諭)
- ・教頭 (PTA 会長)
- ・教務主任 (PTA 会長)

○模擬運営委員会の流れ

- 1 流れの確認や役割の確認・資料を読む
- 2 自己紹介（役になり切って）
- 3 学校運営の基本方針の提案（校長）
- 4 運営委員からの意見
- 5 自治会長からの熟議へつながる発言
- 6 熟議（学校提案の共育活動をもとに地域・学校・家庭それぞれができそうなことを考える）
- 7 振り返り（運営委員長がファシリテート）
- 8 全体での振り返り・総括
（講師：文部科学省総合政策局地域学習推進課 西 祐樹さん）

当日配付資料

信州市立信州小学校
運営委員会資料

キーワードは「繋（つながり）」



今日の議題

- 学校運営の基本方針について
- 学校予算編成について

○熟議の様子から

◇学校・地域・家庭のみんなで作る学校運営の基本方針

→今までは、学校がつくり報告していた学校運営の基本方針に対して、地域・家庭が意見することなく、「OK」を出す、「“お願いする、お願いされる”の関係」であった。これからは、学校、地域、家庭が「対等な立場」で議論し、ともに基本方針をつくり上げる協働的な「Let's」の意識に！

例として示された“考え合う子ども・思い合う子ども・鍛え合う子ども”の姿を目指し、コミュニティスクール共育活動として、学校（黄色）・地域（緑）・家庭（赤）で、それぞれどんなことができそうか色別の付箋を貼りながら熟議を行った。

（あるグループの様子）

- ・社会教育委員や副区長といった地域の立場役の方が「教員の意識改革」と書かれた付箋を貼りながら「先生たち、もっとがんばってほしい。地域の活動にももっと参加したり目を向けてほしい」と話された。
- ・別の地域の立場役の方が「学校全体で地域への活動、ごみ拾い等」や「児童が地域に出る活動を仕組む」といった付箋を貼っていた。



これらの付箋への記述や発言の内容は、「学校にもっとやってほしい」という学校へのお願いの内容で、地域・学校・家庭が対等な立場で議論できていないのではないかと考える。

「それぞれできることを」と熟議を始めても「“お願いする、お願いされる”という関係」が生じるのは、これまで、学校だけで基本方針をつくり、地域や家庭に提案して、学校が地域に支援をお願いしたり、地域が子どもや先生を地域の取組に参加できるように学校にお願いしたりすることが当たり前になっていたからではないかと考える。当たり前となっているこの学校と地域・家庭の関係だと、お願いされた方は「負担感」「やらされ感」が大きくなり、持続可能なものになりづらい。参会者の感想には、「模擬運営委員会は難しかった」「何のためにこんな熟議をするのか分からない」「実際（いつも）の委員会とは違う」という記述があった。模擬運営委員会の設定が難しすぎたという課題もあるが、今までの「“お願いする、お願いされる”の関係」に慣れてしまっていることも、こうした感想がある理由ではないかと考える。これからは、運営委員会で目標やビジョンを共有し、「対等」な立場で議論し、ともによりよい方向を見出し実践していくコミュニティスクールが求められる。つまり、これからは地域・家庭と学校は「Let's」となっていかななくてはならないのではないかと考える。

◇当事者意識をもち、みんなでよりよい方向を見出す意識が高まる「熟議」

→「地域の方にはこんなことを発言してほしいんだよな」「学校にはこう考えてほしい」そんなことを考えながら、その立場になり切った熟議体験を通して、当事者の気持ちになってよりよい方向を見出していく体験ができた。

(あるグループの様子)

教頭先生役を務めるのは、本当はPTA会長の方であったが、「先生たちも頑張っています。地域を教材化した授業にも積極的に取り組んでいるし、担任している子どもへの対応で忙しいです。その点をご理解いただきたい」と言葉を選びながら話した。すると地域の立場役の方が、「分かった。だったら、もっと学校の事を発信してほしい。学校だよりでも回覧板でもいい。そして、もっと地域と学校が話す場を設けてほしい」と話した。その話を聞いていた公民館長役の方が、「公民館として、先生たちが参加しやすい講座を設けることもできるのではないかと対話は続いた。



教頭先生役の方は、「PTA会長の立場から学校を見ると、学校は大変だと感じる。学校は、地域や家庭に学校の事情を隠さず話をしてもいいんじゃないかと思う」などと考えながら、教頭先生の立場になり切った発言をしたのではないかと考える。

教頭先生役の方の発言後、地域の立場役の方や公民館長役の方の話は、地域が歩み寄り学校と情報を共有しようという提案、学校の立場に立ち、関係機関としてできそうなことがあるといった対等な立場での議論となっている。前ページに見られたような「"お願いする、お願いされる"の関係」から、「対等な立場での議論」となっていたのは、包み隠さず学校の内情が語られ始め、互いの理解が進んだり距離が縮まったりしたことで、同じ子どもを育む当事者として「目標へ向けてみんなでよりよい方向を見出そう」という意識になったからではないかと考える。つまり、熟議をする場を設け、共有の目標について議論するということは、それぞれの当事者意識を高めることにつながるのではないだろうか。今回の模擬運営委員会は、「その立場になり切る」ことは難しかったものの、「自分がその当事者だったらどうする…」と当事者意識にふれやすいものだったのではないかと考えている。

地域と共にある学校づくりの目的は、学校と地域が「育てたい子ども像」を共有し、連携・協働して、子どもを育てることです。

地域と共にある学校づくりを充実させ、持続可能なものにするためにも学校と地域でどんな子どもを育てたいのかという目標やビジョンの共有をすることが大切です。目標やビジョンを共有するためには、学校も地域も当事者意識をもって熟議することが大切です。

今回の中信教育事務所開催「学社連携・協働フォーラム」で行われた模擬運営委員会の様子から、熟議を行うことによって当事者意識がもて、みんなでよりよい方向を見出す意識が高まること。また、ともに当事者意識をもって学校運営の基本方針をつくりあげる気持ちで熟議を行うことで、学校と地域は「"お願いする、お願いされる"の関係」ではなく、「協働して子どもを育てる意識」につながることを示唆されました。

来年度の運営委員会や学校運営協議会を行う際、これらのことを参考にいただければと思います。

令和2年度長野県生涯学習推進センター研修講座のご案内



来年度開催予定の講座の中から、学校支援・子ども支援に関わるあらゆる方々に、ぜひ役立てていただきたい講座を4つご案内します。

地域の教育力向上研修

7月16日(木)

「発達障がいがある人は、どのような歩みをしておとなになっていくのか ～さまざまなライフステージにわたる支援を考える～」



信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授 本田 秀夫 氏

来年度も、発達障がいの専門家として国際的に有名な本田先生をお招きし
発達障がいの中で最も多い自閉スペクトラム症を中心に、特性や支援方法
について長期的な視点から学びます。

地域づくり推進研修

上田市で開催
10月7日(水)

「長野県の子どもの自殺の現状と課題～私たちにできること～」

NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク 代表 清水 康之 氏

県内では未成年者の自殺死亡率が全国の中でも高い水準にあり、子どもの
自殺対策は喫緊の課題です。子どもの自殺の実態について理解を深めると
ともに、私たちが小さな気遣いで日常的にできる支援について学びます。

多くの方々に参加していただけるよう、来年度は東信地区で開催いたします。



新講座！
6月30日(火)

地域の教育力向上研修

「運動遊びで体とこころを育てる」

松本大学/松本大学松商短期大学 教授 犬飼 己紀子 氏

生活習慣の変化に伴い、子どもたちの体力や運動頻度の変化が問題になって
います。発達段階に適した運動遊びが脳に与える影響や、運動遊びを通して
どのようにコミュニケーション能力が育まれるかを学び、実技ではバランス
の良い運動遊びの例を通して、子どもと向き合う姿勢を学びます。



新講座！
9月10日(木)午後

地域づくり推進研修

「学び続けるために」

ジャーナリスト 池上 彰 氏

地域社会は困難な課題に直面しており、グローバル化の中でそれらの
諸課題は世界や日本の動向に直結しています。本講座では、世界情勢に
精通される講師から現代の諸課題をひも解いていただき、私たちがどの
ように学び合い、地域づくりを進めていくのか、また、そのときに公民
館にはどのような役割が期待されるのかについて考えます。

【要入場券・申込期間 6/1～7/31 先着順・申し込み方法はHP参照(5月以降)】

(県生涯学習推進センター 専門主事 藤村 ゆかり)

■■お問い合わせ先■■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel: 026-235-7437 E-mail: bunsho@pref.nagano.lg.jp

東信教育事務所生涯学習課 Tel.0267-31-0252

南信教育事務所生涯学習課 Tel.0265-76-6861

南信教育事務所飯田事務所 Tel.0265-53-0460

中信教育事務所生涯学習課 Tel.0263-40-1977

北信教育事務所生涯学習課 Tel.026-234-9552

長野県生涯学習推進センター Tel.0263-53-8822

生涯学習プログラムガイド集 HP アドレス ▶ <https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html>